

成果の説明書

(氏名) 大島 登志彦	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>「・」で関連調査の出張日と内容を記す。 論文等の具体的研究成果は○番号で記す。</p> <p>[I] 科学研究費のプロジェクトの分担研究 (3年間の2年目)</p> <p>「超高齢化社会に向けた大都市縁辺地域のモビリティ満足度に関する地理学的研究」 駒澤大学土谷敏治教授主導の表記プロジェクトの分担研究の一環として、主に次の2 要目に関して、調査と事例研究を行った。調査を重ねながら、従来からの研究を蓄積し て成果報告したり、新たな問題意識を認識した。</p> <p>(1) 地方の路線バスの運賃に関わる諸問題と近年の動向</p> <p>一般路線バス (距離制運賃で都市間輸送主体) とコミュニティバス (均一低廉運賃で 市内輸送) の運行事情や運賃格差、高校生などの割高な路線バス運賃がバス離れが進行 した状況などに関して考察を進め、これらの問題に関わる近年の自治体の検討・対策事例 を、今までの資料や見聞調査をもとに、論文をまとめた (①②)。</p> <p>(2) 北関東及甲信越諸県の諸都市における従来からの公共交通の継続研究</p> <p>今年度はとりわけ、高校生の通学需要における変遷や諸問題を、昨年度に続き、自治 体や教育委員会の支援の具体的事例を研究した。また、デマンドバスについて、多種多 様な方式などを提示しながら、長短所を考察した。</p> <p>関連フィールド調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月9日：喜多方市のデマンドバスと億合図の鉄道不通区間の代行バスについて ・ 12月4日：上田市・立科町・長和町の路線バス事情と500円運賃の導入について ・ 12月14日：水戸市・大洗町・石岡市における交通事情の調査 ・ 12月24日：栃木県庁及び宇都宮・栃木・小山市におけるバスの実態調査と資料収集 ・ 1月23～24日：新潟県北部の路線バスの調査と資料収集 ・ 1月31日～2月1日：新潟県西部から富山県にかけての路線バス調査 <p>①「地方の路線バス運賃のデフレ基調とそれに伴う諸問題」『デフレーション現象の多角 的接近』(日本経済評論社、2014年3月) pp.117-133</p> <p>②「路線バスの歴史と課題」『交通新聞』2014年2月17日付</p> <p>[II] 平成26年度ぐんま地域・大学連携モデル事業</p> <p>「沼田市における乗合バス運行事業の見直しの検証と利根沼田広域圏の連携」 表題の研究を受託研究させていただいた。この研究に関して、年度末に報告書を群馬 県に作成し、群馬県に提出(③)した。あわせて、且つ沼田市内で利根沼田広域圏の市町村 担当者やバス事業者も含めて懇談した会議(3月6日)、ぐんま地域・大学連携協議会総会 (2014年4月23日)で、成果発表した。主たる項目と成果内容は、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 沼田市域のバス全系統の歴史的変遷を改めて考察(私の過去の見聞と資料収集も含む)。 2. 沼田市の担当部署によるバス利用者調査結果をもとに、具体的要望や改善提案を指摘。 3. 全バス路線に乗車して利用状況を調査し問題点を考察。 4. 夜間の沼田・後閑駅の下り列車到着時の送迎自家用車の駐停車や台数などを調査。 5. 自家用車3.適正な運行時刻を、増発やコストの大幅増とならない現行枠での改善提案。 (特に、早朝深夜の列車に接続するバスの運行要望とルート・運営方策を提案) 	

6.観光地の再認識と観光客のための路線バス整備方策を提案

関連フィールド調査

・利根沼田地域のバス事情の実態調査延べ5日(11月20日、12月6日、1月10・12・14日)

③『沼田市域とその周辺における路線バスの現況と今後の課題』(2014年2月、高崎経済大学経済学部 大島登志彦)

[Ⅲ]わが国の蚕糸業と稼働製糸工場の現状と諸問題

現役または最近まで稼働した製糸工場を現地調査し、論文にまとめた(④)。

関連フィールド調査

・6月14～15日：諏訪山梨方面の製糸工場(宮坂製糸、松澤製糸、斎藤製糸、三珠館など)

・11月1～2日：松岡(現役の製糸工場)の見学調査(他項目に記す路線バス調査含む)

④「近年の日本国内の蚕糸業の動向と製糸工場の現状」『高崎経済大学論集』第56巻4号(2014年3月)

[Ⅳ]震災後の東北地方海岸沿いの交通事情の調査

東日本大震災から3年が経過した。継続的に可能な限り、個人としてのフィールド調査(路線バスや震災復興支援バスなどに乗車した調査を含む)をしてきた。具体的成果報告の執筆には至らなかったが、各所の交通事情を見聞し、資料収集などを行った。震災復興と研究課題の糸口は多岐に亘っており、来年度に調査記録をまとめたいと考えている。
関連フィールド調査:6月29～30日(久慈～岩泉間の三陸海岸沿と南三陸・気仙沼地域)

以上、著書(共著)は、『』に著名・「」で分担執筆題目を記載し、論文は「」に題目・『』に雑誌名を記載)。出張については、通常の研究費と上記[I]～[Ⅲ]の各枠組みの予算で行ったが、予算の執行時期・残額に応じて、各枠組みとは別の予算枠で出張したものもある。

2 その他の事項

・学生を引率したゼミナールにおける会津若松方面への巡検と指導(8月29～31日)

学部3年生に対して:フィールド調査と資料収集方法及び論文執筆の基礎を指導

学部2年生に対して:地理・歴史・経済史的に重要なビューポイントを巡回して説明

・大学院博士後期課程院生(新井祥純君)に対する指導と学位の取得

修了と学位取得に向けた指導(11月21日に中間報告会、2月6日に最終報告会)

学会発表と学会誌への査読論文執筆の指導:研究発表(日本交通学会)

高崎経済大学論集(55-2、2013年)

・自主的な研究会参加や外部からの委嘱された社会活動業務

「地方自治体の交通弱者対策と財政規律に関する研究」(日本交通政策研究会)に参加

(2012年度の研究プロジェクト、2013年度にバス運賃に関わる論文執筆、編集中)

前橋市全市域デマンド化研究会委員(副代表)(2回の研究会議が開催)

群馬県タクシー特定地域協議会

群馬県が表記特定地域に指定され2009年10月創始(座長として参加)

2014年1月準特定地域に移行(同時に協議会の会長、3月5日協議会開催)